

“Heart to Heart”

第16巻 第2号 (No.48)

発行日 2021年12月1日

心から心へ わかちあう あたたかさ

目次:

ほめ方が大切	1
療育プログラムのようす	2・3
コラム：親離れ・子離れのとき	4
ホームカミングデー	4
教育センターからのご案内	4

ほめ方が大切

「ほめて伸ばすということは、子どもを叱ってはいけないんだ」と勘違いしている場面を時折見かけることがあります。ほめて伸ばすことの目的は、達成感を持ちながら自主的に行動できるようにサポートすることです。我が子を傍若無人で、我慢のできない子どもにすることではありません。悪いことは悪いと教えることは大切です。

そこで、今回はほめ方について紙面の許す限り書いてみたいと思います。

◇「ほめる」ことに関するある研究から結果ではなく、努力をほめられた生徒の9割が、新しい問題をチャレンジする方を選び、学べるチャンスを逃さなかった。つまり、子どもが努力したことをほめると、子どもは努力することに喜びを感じるようになるし、積極的に難しいことに挑戦できるようになる。

◇その場ですぐほめる
ほめのタイミングが重要。子どもは、後でほめられても覚えていないし、心に響きません。

◇言動を具体的にほめる
「いい子だね。」と何度も判を押したようにほめられるよりも「お手伝いしてくれて助かる。」「友だちと仲良くできたね。」と具体的にどこがよいのかをほめてもらったほうが嬉しさが増すもの。それは、自分のことをちゃんとよく見てくれているんだという安心感や喜びが得られるから。

◇先にほめる
うまくできなかったことをとやかく言う前に、先によかったところからほめましょう。「今日の○○できてよかったよ。練習一生懸命やったものね。ちょっと、間違ったところは後で見直そうね。次はもっと上手に弾けるよ。」ほめながら

武蔵野東教育センター所長 計野浩一郎

も次も頑張ろうと励ますことが、子どもをやる気にさせる。

◇スキンシップとともにほめる
体のふれあいは安心感を与えるとともに守られている、認められていることを強く感じられるものです。抱擁することもよいが、「手当て」という言葉があるようにそっと体に触れる、背中をさする、手を握ることだけでも心がほぐれ相手を受け入れやすくなる。

◇何かをしながらかではなく、子どもの目線まで下りて、しっかりと目を見てほめる。

◇「ありがとう」「助かった」もほめ言葉
「あなたがいてくれて助かった」「○○してくれてありがとう。お母さん助かったよ。」どちらも言われて嬉しい。お礼やありがとうを増やしていく。

いろいろと書きましたが、養育者は子どもにとって常に安全基地となれるようにすることが重要です。「あなたが決めたことを後押しする存在です。」を子どもたちにいつも語りかけてあげてください。

コロナ禍は、人を対象とする教育の実施を難しくしました。多くの支援者がご苦労されていることと思います。しかし、この状況において、教育のレジリエンスとでもいうべきものが試されているのかもしれませんが、生活、教育、労働の新しい様式のなかで、教育をいかに弾力的に行うか。そのような取り組みの中から生まれる新しい発想をこれからさらに模索していく必要を感じています。

もうすぐ冬休みになります。家族で過ごすことが多くなるかと思えます。日本の伝統的な遊びを取り入れて家族で楽しむよい機会にしてください。





療育プログラムのようす 【各教室・言語プログラム】

リトムーブ教室 赤青のジョイントマットを使ってステップを練習しています。初めは、思うように足が動かなかった子ども達ですが、カラーマットを使い、視覚的に分かりやすくすることで、タッチステップやクロスステップができるようになりました。最近では、ステップに合わせて手拍子をしたり、両手を上下に動かしたり、右肘と左膝など体の対角線の部位を合わせる複雑な動きも笑顔でできるようになりました。(高橋)



ステップ体操

コンピュータ教室 「10分間チャレンジ」として、授業の始めに10分間で文字を何文字タイピングできるか挑戦しています。これは、2月に行う予定の文章入力スピード検定のための練習です。受検を予定している子の中には、自分で目標の文字数を決めて頑張っている子もいます。タイピングの速度だけでなく、漢字の変換や改行などの操作にも慣れてきて、順調に記録が伸びています。(大澤)



10分間チャレンジ

SST教室 小3・4年生グループは、目隠しをした友だちを目的地まで誘導する「目かくし道案内」に取り組んでいます。聞き手は、指示を聞いて、その通りに行動すること、伝達側は、見えていないことに配慮しつつ、具体的な指示を出し安全に誘導することが課題です。「ちょっと」「こっち」等の曖昧な言葉が通じないことに悪戦苦闘しながらも、相手とうまく意思疎通する方法を学んでいます。(宮川)



具体的な言葉で

音楽教室 音符と音名が書かれたフラッシュカードを使って読譜にチャレンジしています。カードを使うことにより、神経衰弱や七並べのようなゲーム感覚で音名を学習することができます。またアクティブ暗記法を活用して、「左肘を上げる動き=4分音符」といったように、身体の部位や動きと音符名を関連付けて記憶し、脳を活性化させながら学ぶことにも取り組んでいます。(平瀬戸)



読譜にチャレンジ

幼児絵画造形教室 紅葉の美しい色を表現しようと、絵の具の活動を楽しみました。はじめに黄色でイチョウの葉、赤でカエデの葉を塗りました。次にオレンジ色で塗ってみたいと思いましたが、色がありません。悩んでいるみんなに「赤と黄色を混ぜてみたら」と伝え、それぞれが、思い思いの分量で赤と黄色をまぜ合わせました。「あらふしぎ！」素敵なオレンジ色ができました。子どもたちは遊びからいろいろなことを学んでいます。(本田)



色々なオレンジ色がきたよ

体育教室 小学1.2年生の体育教室では、ホッピングに組んでいます。導入時に子どもたちがつまずくポイントがいくつかあります。その1つに、ハンドルと身体が離れてしまい、安定した跳躍姿勢が保てないことがあります。そこで効果的だったのが、タブレットで撮った写真で自分の跳躍姿勢を確認しながら練習することでした。その成果もあって、連続跳躍記録が610回にも伸びた子どももいました。(鈴木)



ハンドルと身体を密着させる

ダンス教室 1年間の成果を発表する「ダンス発表会」の練習が始まりました。今年度は「元気に可愛らしく！」をテーマに、1人1輪ずつ花を持って踊ります。本番は衣装を着けて、髪型を揃え、本格的な雰囲気の中で保護者の方々に見ていただく予定です。自分の振りを覚え、最後まで笑顔で踊り続けることができるよう、練習を重ねていきたいと思っています。(益田)



可愛らしくポーズ！

言語プログラム 「おやつたーべよ！」の歌に合わせて「いちご、ごーごー！」「どうもろこし、しーしー！」と、最後の音を繰り返しながら一緒に歌っています。ジェスチャーを付けることで、相手を見て模倣する力や相手と合わせる力を育てます。最後の音を意識できるようになると、しりとりなどの言葉遊びにも繋がります。「果物はどれ？」「好きなおやつはどれ？」などと質問をしながら、楽しく取り組んでいます。(服部)



おやつを選ぼう！



【スクールプログラム・ラーニングプログラムの様子】

幼児 今年度は、絵本の読み聞かせに力を入れています。子どもたちの発達段階やその日の活動内容に合わせて、毎回何冊かの絵本を用意しており、「これは何かな?」「次はどのようなかな?」と、担当者と子どもたちとで絵本を通じたやりとりを楽しんでいます。また、家庭でも絵本に親しめるように、読んだ絵本は保護者の方にも紹介しています。(本村)



絵本の動きをまねっこ!

1年生 音楽で鳴子を行っています。鳴子は元々鳥や獣から作物を守る「鳥よけ」の道具だったそうです。今では「よさこい」でおなじみの楽器ですが、1年生は『おどるポンポコリン』の曲に合わせて奏でています。決め手は「チャチャ!」と軽快にリズムを刻むところです。両手を上げて皆で元気に振り鳴らすと、鳴子の小気味よい音が響き渡ります。(諸橋)



みんなでふりふり

2年生 算数で「三角形と四角形」を学習しています。「辺」「頂点」「直角」という用語を新たに学び、その数に着目して三角形と四角形の性質の理解を深め、正しく弁別できることを目指しています。紙を折って直角を作り、正方形を5つの直角三角形に切り分け、辺・頂点・直角を意識して構成するなど実際に手を使う体験を取り入れ学習を重ねています。(壹岐)



直角はどこにあるかな



そーっと丁寧に

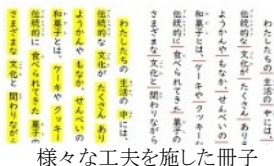
3年生 季節や学習単元と連携させながら図工の作品を作っています。丁寧に作業することや、配置を考えることなど繰り返し練習することで各自のスキルが高まり、日常的な机上の整理や作業手順の理解などにもつながっています。「先生、今日の図工は何をつくるの?」「今日の作品かっこよくできた」など子どもたちは図工を楽しみにしています。(宮下)



両手で演奏

4年生 音楽の授業で鉄琴の練習をしています。ポイントは、両手バチで演奏することです。利き手と反対の手を使うと、叩く場所からはずれてしまうことがあります。また、手から鍵盤まで距離があるため、きれいな音を鳴らすには手元への注視や力の調整が必要になります。演奏を楽しみながら、操作性や力の入れ方などを学んでいきましょう。(柳澤)

5年生 国語で音読に力を入れています。言葉や文章の意味を理解したり、物語の場面をイメージしたりするためには、目で文字を追う力や言葉のまとまりを意識して読む力を高めることが重要です。単語ごとの区切りに空白を入れる、線を引く、ハイライトで視覚的に見やすくするといった、子どもたちの特性を踏まえた教材を準備して練習を続けて行きます。(宮川)



様々な工夫を施した冊子

6年生 11月から、スクールの体育活動でバスケットボールを使った基礎的な運動を行っています。技術が上達し片手ドリブルで行きたい方向へ自由に移動できるようになりました。今後は、友だちどうしでのワンバウンドパスやチェストパスなどの運動を通して、ボールだけでなく相手の動きを見ながら、連続した動きができるよう練習していきます。(藤本)



ドリブルでの移動

中学生 国語「高校入試に向けて」では、ミニ模擬テストの実施を新たな取り組みとして導入しました。テストは「聞き書き」、「作業」、「文に書かれた指示に従うこと」、「計算」、「文章題」といった内容です。手を膝に置き担当者の合図で開始すること、テスト中の私語を慎むことなど入試で問われるルールに則って行いました。それぞれが、中学生らしい自覚を持ち緊張感をもって臨んでいました。(村上)



ミニテスト実施中(聞き取り問題)

ラーニングプログラム 活動の中で、学習だけでなく子どもたちの社会性やコミュニケーションも育めるよう意識しています。入退室時に相手の顔を見てあいさつをすることをはじめ、ペアの友だちと物の受け渡しやゲームといったソーシャルスキルの課題に取り組むこともあります。幼児なら手遊びで注目や模倣を促すこと、また「教えて(手伝って)ください」「ありがとうございます」などと、その場に即したことばやジェスチャーで気持ちを伝えることも指導しています。(斎藤)



友だちと交代でドミノ並べ



コラム 就労支援になさわって(3)

親離れ・子離れのとき

鎌倉ゆみ子(前武蔵野千川福祉会理事長)

現役時代のエピソードです。新一年生を迎え春4月は家庭訪問。開口一番ご家庭より「施設にいれたいのですが」とのお話。訳を伺えば中学校までは徒歩で通学できたのだけれど高等部はバスと電車を使い継がなければならない。家庭の事情で送迎はできないから、いっそ施設へ・・・とのことでした。「いやいや、そう急がずとくんでみましょうよ」と提案し、翌日から実行。ご家庭ではバス乗車まで見届けていただく。私はバス降車場所で待ち、一緒に電車に乗る。決まった号車に乗り、座らない。窓の外を見て降車駅を確認。学校までの道路は安全な道を。次のステップ、私は電車内で隠れており、次のステップはすべて彼ひとり。1か月ほどの経験で彼はひとりで通学する力を身に着けました。

その秋のこと。学年行事・社会見学で横浜散策をしました。翌日の事後学習の際、彼は作文代わりに絵を描いたのです。見事な鳥瞰図。横浜中華街入口のエキゾチックな朝陽門を描き、善隣門までの縦横に伸びる道路はほぼ正しく、さらに

途中で目にとまった大きな陶芸の「龍の像」までも。まさに視覚優位の人でした。卒業後の彼は、元気に地域の作業所に通っています。

武蔵野千川福祉会入所式では本人に各事業所への辞令を手渡します。辞令伝達の後、私は「4月15日のお給料(工賃)はご家庭の方とともに仕分けしてください」という話を毎年度いたしました。一生懸命働いていただいたお給料を「お小遣い・貯金・家にいれる」と封筒三枚でわけて使ってくださいという提案です。何といても第1回目の工賃です。現金支給です。勿論、お家の方は封を開けたら目一杯驚いたり喜んだりしてくださいね・・・ということもぜひぜひひと願いました。

工賃支給日の後。視察したチャレンジャーにて「理事長、僕お母さんにハンカチプレゼントしたんです。」と話しかけてくれた彼がおりました。東学園の卒業生でした。きっとお母さんの好みを考えながら買物の時間が過ごせたらろう・・・と想像します。お母さんの笑顔も浮

かびます。そんなエピソードが周囲を温めてくれました。彼は今、企業に就労し、誠実に、ひたむきに働いています。嬉しいことです。

金銭管理はむずかしい課題です。けれどもお金に親しみ、品物と大まかな値段をつなげて理解していく「金銭感覚」はだれにでも可能であり現実的な力になります。

交通機関の利用をすること、工賃(給料)を昼食代や小遣いとして上手に使うことは社会人として生きるための大事な生活力であり、彼の、彼女の新たな世界を広げていくことにつながります。自分で考え、自分で行動し、達成感と自信を身に着けていきます。

親離れ、子離れの第一歩はこうした横への発達と考えております。学校生活では想像できなかったような、たくさんの人との関わりがあり、多様な景色がある、その意味で豊かな世界を広げていく姿を期待し、確かめていきたいものですね。



このコラムは4回シリーズでお届けしています。

ホームカミングデー2021

今年度も、11月23日にオンラインでホームカミングデーを開催しました。それぞれの近況報告の後には、エアロビクス、クイズ大会、カラオケと大いに盛り上がり、楽しい時間となりました。



武蔵野東教育センター

〒180-0012

武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

URL: <http://www.musashino-higashi.org>

2022年度療育プログラム申し込み

2022年度療育プログラムの一次募集を行っています。受講希望の方は申込用紙またはウェブサイトのフォームで2021年12月7日(火)までにお申し込みください。ご相談や見学も承っておりますので、お気軽にご連絡ください。